

き ひと はなし
聞こえない人とお話してみよう

き
聞こえづらいつてどんなこと？



みみ ふじゆう あらわ みみ
耳が不自由なことを表す「耳マーク」

せい ちやう けんこう ふくしかん びやうぶ しゃかい ふくしか
精華町健康福祉環境部社会福祉課

れいわ ねん がつ
令和6年3月

はじめに

あなたのまわりに音や言葉が聞き取りにくい人はいませんか？

あなたのおばあちゃんやおじいちゃんはどうですか？

「最近耳が遠くなってねえ。」という言葉聞いたことはありますか？

その人が見ていたテレビやラジオの音が大きくてびっくりしたことはありませんか？

音や言葉が聞こえにくいって、どんなことだろう？どんなことに困るんだろう？みなさんも想像してみてください。うしろから声をかけられたらどうでしょうか？聞こえないと振り返って返事ができないこともあります。

音や言葉が聞こえない、聞こえにくい状態のことを「聴覚障害」と言います。そして見た目では障害があることはわかりません。

「聴覚障害」と言っても、まったく聞こえない人、補聴器を使えば少し聞こえる人、人生の途中で聞こえなくなった人、生まれた時から聞こえない人、高齢になり聞き取りにくくなった人など、聞こえの状況や聞こえなくなった時期はさまざまです。

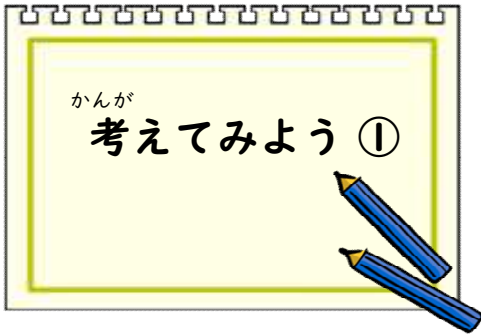
では「聴覚障害」のある人とお話するにはどうしたらいいでしょうか？

手話を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、でも「聴覚障害」のある人が、みんな手話を普通に使ったり、わかったりは、しないのです。

手話は、お話ししたり、気持ちを伝えるための手段の一つです。

身振り手振り、文字を書く（筆談）、口の動きを見る（口話）、ゆっくり話す、はっきり話す、インターネットの利用など伝えるための方法はたくさんあります。

あなたの周りにいる聞こえにくい方に、どうしたら伝えられるか、考えることから始めませんか。



ちょうかくしょうがい ひと いえ なか こま
聴覚障害の人が、家の中で困ることはなんだろう？

ちょうかくしょうがい ひと がいしゅつさき こま
聴覚障害の人が、外出先で困ることはなんだろう？

おと き き み め にちじょうせいかつ
音やことばが聞こえないことや聞こえにくいことは見た目ではわかりません。日常生活のなかに
ひそ きけん こま そうぞう
潜む危険や困ることを想像してみてください。

たと せんたくき でんし しゅうりょうおん き せいかつ ふべん がいしゅつ
例えば、洗濯機や電子レンジの終了音が聞こえないなどの生活の不便があったり、外出
さき み きけん さっち でき き ひと あ まえ
先で見えないところにある危険を察知することが出来ません。聞こえる人には当たり前のこと
ちょうかくしょうがい ひと き き せん じょうきょう
でも、聴覚障害の人には聞こえない（聞こえにくい）ことで危険な状況になることもありま
まわ ひと てだす かいけつ
す。周りの人のちょっとした手助けがあれば解決できることもあるので、まずは、どんなことに
こま いっしょ かんが こま き てだす
困っているのかを一緒に考えてみましょう。困っていることに気づけるようになって、手助けが
ひつよう たず
必要かどうかを尋ねることができるようになれるといいですね。

たと ひと
例えば、人がたずねてきたときはどうでしょう？
にもつ はいたつ ひと いえ き
もし、荷物を配達する人が家に来たら？

げんかん き
玄関チャイムが聞こえない

げんかん い
玄関へ行けない

るす かんちが き ひと かえ
留守だと勘違いされて、来た人が帰ってしまうか
もしれません。
にもつ ゆうびん う と
荷物や郵便を受け取れないかもしれません。

たと びょういん い
例えば、病院へ行ったときはどうでしょう？
うけつけ なまえ よ
受付で名前が呼ばれたら？

なまえ よ き
名前を呼ばれても聞こえない

へんじ
返事ができない

まちあいしつ おも しんさつ じゅんばん うし
待合室にいないと思われて診察の順番が後
ろにずれるかもしれません。

たと みち ある
例えば、道を歩いているときはどうかな？
もし、後ろから自転車や車が来たら？

ベルやクラクションが聞こえない

ほどう みち はし よ
歩道や道の端に寄れない

じてんしゃ よこ とお の ひと なら
自転車がすぐ横を通ったり、乗っている人に睨ま
れたり、怖い思いをするかもしれません。
ケガをしてしまうことがあるかもしれません。

たと でんしゃ じょうしゃ
例えば、電車やバスに乗車しているときはどうかな？

じ こ こしょう とつぜん と
もし、事故や故障で突然止まったら？
しゃないほうそう き
車内放送が聞こえてきたら？

なに はな
何を話しているのかわからない

こうどう よ
どのように行動すれば良いか

はんたん
判断できない

まわ ひと み ふあん
周りの人たちを見て不安になるかもしれません。
すぐに行動を起こせないかもしれません。
と のこ
取り残されてしまうかもしれません。

かんが

考えてみよう ②



おと き き み め
音やことばが聞こえないことや聞こえにくいことは見た目では
わかりません。「考えてみよう①」では、日常生活のなかに潜
む危険や困ることを考えてみました。今回は、どのような解決方
法があるのかを考えてみましょう。

じょうほう と にちじょうせいかつ しえんようぐ たと ちょうりよく おぎな ようぐ ほちょうき
情報のやり取りのための日常生活の支援用具には、例えば、聴力を補う用具の補聴器、ヒアリ
ンググループなどの補聴援助システム、会話のかわりに筆談をするためのボード、電話のかわりに
ファックスでやり取りするなど目的に応じた機器などがあります。また、日常生活にかかせない、電
わ ちゃくしんおん らいきやく げんかん おと ひかり しんどう し きき
話の着信音や来客の玄関チャイムやノックの音などを光や振動で知らせるための機器もありま
す。

さいきん でんしゃない もじじょうほう ひょうじ おな
最近、電車内でも文字情報がディスプレイに表示されるようにもなりましたが、どこでも同じよう
もじじょうほう ていきょう きんきゅうじ もじじょうほう す ていきょう
に文字情報が提供されているわけではありません。また、緊急時には、文字情報が直ぐに提供され
ない場合がありますが、そのような時は聞こえる人のサポートが助けになります。

おと 物の
音のかわりになる物ってなんだろう？

おと ひかり しんどう きき
音を光や振動にかえる機器

かさいほうちき ひかり しんどう し
火災報知器・・・光や振動で知らせます。

しんどうがためざ どけい しんどう し
振動型目覚まし時計・・・振動で知らせます。

おくないしんごうそうち げんかん でんわ
屋内信号装置・・・玄関チャイムや電話やメー
ルチャクシンの着信音など特定の音とくてい おとを
ひかり
光にかえます。

おんせいじょうほう もじ きき
音声や情報を文字にかえる機器

ひつだん じせき りょう か
筆談ボード・・・磁石を利用しているので書き
け
消しができます。

もじ じょうほう つた
ファックス、メール・・・文字で情報を伝えます。

かんじゃあんないたんまつ びょういんつか
患者案内端末・・・病院で使われている
けいたいがた よびだしき
携帯型の呼出器です。

しんどう し もじ
振動で知らせて、文字で
ないよう つた
内容を伝えます。

き ひと でき こと
聞こえる人が出来る事はなんだろう？

じてんしゃ くるまうんてん おと あいず き ひと ある おも
自転車や車を運転するとき・・・「音で合図しても聞こえない人が歩いているかもしれない」と思って
うんてん こと
運転する事ができます。

でんしゃ りょう じこ さいがい けいたいでんわ つか じょうほう
電車やバスを利用しているとき・・・もし「事故や災害にあったら」携帯電話やメモを使って情報を
つた こと
伝える事ができます。

そうぐう じしん おつ まわ みわた ふあん
もし遭遇したら、自身が落ち着くこと、そして周りを見渡して不安な
ひょうじょう まわ み ひと み まよ こえ
表情でキョロキョロ周りを見ている人を見かけたら、迷わず声をか
けましょう。

き ひと はな はな
聞こえない人と話したいけれど、どうやって話しかけたらいいのかな？

聞こえない人に話しかけるときは、目を合わせながらゆっくり話し始めましょう。

アプリケーションソフトウェア

きき ひと はなし とき
聞こえない人とお話しする時には、
ほうほう
どんな方法があるのかな？

スマートフォンやパソコンを^{しよう}使用して、^{おんせい}音声や
^{もじ}文字などをやり取り^とすることができます。

ひつだん 筆談

かみ もじ か つた
紙などに文字を書いて伝えます。
か け ひつだん べんり
書いて消せる筆談ボードなどのグッズも便利
です。

そらが 空書き

くうちゅう ゆび じ か つた
空中に指で字を書いて伝えます。
または、^て手のひらに^{ゆび}指で^か書いて^{つた}伝えることも
できます。

みぶ てぶ 身振り手振り

みぶ てぶ くふう つた
身振りや手振りを工夫することで伝えることが
できます。

こうわ 口話

くち うご よ と おお
口の動きを読み取ってもらえるように、大きく
くち あ はなし
口を開けて話をします。

しゅわ 手話

て はなし め み
手で話し、目で見ることばです。
て からだ め うご かお ひょうじょう
手だけでなく、体や目の動き、顔の表情を
つか はなし
使って話をします。

しよくしゅわ 触手話

め み みみ き かた もう しゃ
目が見えず、耳が聞こえない方を盲ろう者と
いいます。^て手に^ぶ触れて^{しゅわ}手話を^{つた}伝えることを^{しよく}触
手話といひます。

しゅわ つか あいて め み ひょうげん
手話を使うときは、相手の目を見てはっきり表現することを
こころ
心がけましょう。

スマートフォンやタブレット端末^{たんまつ しょう}で使用できる

『聴覚障害者支援アプリケーションソフトウェア』^{ちょうかくしょうがいしゃしえん}

持ち歩き^{も ある}ができるスマートフォンやタブレット端末^{たんまつ}などのモバイル機器^{きき かつよう}を活用して、聴覚障害者^{ちょうかくしょうがいしゃ}と健聴者^{けんちょうしゃ}の間で、文字^{あいだ}と音声^{もじ おんせい}を互いに交換^{たが こうかん}することで円滑^{えんかつ}なコミュニケーション^{おこな}を行えるように支援^しするアプリケーションソフトウェア^{えん}があります。

これらのアプリケーションソフトウェアには、有償^{ゆうしょう ていきょう}で提供^{むしょう ていきょう}されているものと無償^{むしょう ていきょう}で提供^{むしょう ていきょう}されているものがあります。また、インターネットや電話回線^{でんわかいせん}に接続^{せつぞく}して使用するもの、災害発生^{さいがいはっせいじ}時にインターネットや電話回線^{でんわかいせん}が使えない^{つか}時^{とき}にでも使用^{しょう}できるものなど多種多様^{たしゆたよう}です。アプリケーションソフトウェア^{つか}の使用^{つか}の方^{かた}にも違い^{ちが}があります。自宅^{じたく}や外出先^{がいしゆつさき}など、使う場面^{つか}や目的^{ばめん}に応じて選択^{もくてき}の幅^{おう}が広が^{せんたく}っています。

ここでは、電波^{でんぱ}の届かない^{とど}(インターネットに接続^{せつぞく}できない)場所^{ばしょ}でも使える^{つか}国立研究開発法人^{くにたてけんきわかいはつほうひと}情報通信研究機構^{じょうほうつうしんけんきわきこう}(NICT)^{こう(えぬあいしーていー)}が研究成果^{けんきゅうせいか}をもとに開発^{かいはつ}をしたアプリケーションソフトウェア^を二つご紹介します。

文字^{もじ}と音声^{おんせい}を交互^{こうご}に変換^{へんかん}しあうことで円滑^{えんかつ}なコミュニケーション^でができるように支援^{しえん}をしてくれます。組み込み型^{く こ}の音声認識^{かた おんせいにんしき}を使用して話した音声^{しょう}を文字^{はな}に変換^{おんせい}することができるから、電波^{でんぱ}の届かない^{とど}場所^{ばしょ}でも使えます^{つか}(インターネットに接続^{せつぞく}せずとも使えます^{つか})。場所^{ばしょ}を問わずどこでも使えます^{つか}から安心^{あんしん}です。

◆ 『こえとら』 → 聴覚障害者^{ちょうかくしょうがいしゃ}を支援^{しえん}するためのアプリケーションソフトウェア

◆ 『SpeechCanvas(スピーチキャンバス)』


→ 手話^{しゅわ}のできない健聴者^{けんちょうしゃ}を支援^{しえん}するためのアプリケーションソフトウェア

『こえとら』は、NICT(エヌアイシーティー)の知的財産^{ちてきざいさん}(高精度音声認識技術^{こうせいどおんせいにんしきぎじゆつ}と高品質音声合成技術^{こうひんしつおんせいごうせいぎじゆつ})を用いたアプリケーションソフトウェア^{もち}で、総務省^{そうむしょう}の協力^{きょうりよく}のもと電気通信事業者^{でんきつうしんじぎょうしゃ}の協賛^{きょうさん}により、株式会社^{かぶしきがいしゃ}フィートより無償^{むしょう}で提供^{ていきょう}されています。

一方^{いっぽう}の『SpeechCanvas(スピーチキャンバス)』は、NICT(エヌアイシーティー)の知的財産^{ちてきざいさん}(高精度音声認識技術^{こうせいどおんせいにんしきぎじゆつ})が用いられており、株式会社^{かぶしきがいしゃ}フィートより無償^{むしょう}で提供^{ていきょう}されていますが法人向け^{ほうじんむ}は有償^{ゆうしょう}です。

かんが
考えてみよう ③


にちじょうせいかつ しえん ようぐ
 日常生活を支援するための用具はあるのかな？



にちじょうせいかつ じょうほう と てだす どうぐ きき にちじょうせいかつ しえんよう
 日常生活における情報のやり取りを手助けするための道具や機器のことを日常生活の支援用
 具と言います。障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由など）の特徴に合わせてさまざまな用
 具を使い分けることによって、コミュニケーションの幅を広げることができます。

かんが
考えてみよう ④

いしそつうしえん しえん しゃ ひと
 意思疎通支援(コミュニケーション支援)者はどんな人？



ちょうかくしょうがいしゃ しょうがい ていど ほうほう き ちから
 聴覚障害者は障害の程度によってさまざまなコミュニケーション方法があります。聞く力が
 のこ ばあい ほちょうき かつよう ひと おお ひつだん しゅわ みぶ しかくてき ほうほう
 残っている場合、補聴器を活用する人もいますが、多くは筆談や手話、身振りなど視覚的な方法でコ
 ミュニケーションをされています。

がっこう じごと か もの びょういん せいかつ なか ひつよう ばめん おお
 学校・仕事・買い物・病院など、生活の中でコミュニケーションが必要な場面はとて多くあります。
 きこえる人ときこえない人のコミュニケーションの間に入って情報を伝える(通訳する)人を「手
 わつうやくしゃ ようやくひつきしゃ
 話通訳者」や「要約筆記者」といいます。

しゅわつうやくしゃ しゅわ つか ちょうかくしょうがいしゃ けんちょうしゃ つうやく
 手話通訳者は、手話を使う聴覚障害者と健聴者のコミュニケーションを通訳します。
 ようやくひつきしゃ しゅわ し ちょうかくしょうがいしゃ けんちょうしゃ おんせい もじ
 要約筆記者は、手話を知らない聴覚障害者と健聴者のコミュニケーションを音声から文字へ
 つうやく しゅわつうやくしゃ ようやくひつきしゃ いったいきかん こうしゅう しけん う しかく しゅとく
 通訳します。手話通訳者も要約筆記者も一定期間の講習と試験を受け、資格を取得します。

まち しゅわつうやく ようやくひつきしゃはけんじぎょう ひと ひつよう とき しゅわつうやくしゃ ようやくひつき
 町には、手話通訳・要約筆記者派遣事業があり、きこえない人が必要な時に手話通訳者や要約筆
 しゃ はけん せいど
 記者を派遣できる制度があります。

しゅわつうやく ようやくひつきしゃしかく ゆう ひと すく げんじょう
 しかし、まだ手話通訳・要約筆記者資格を有した人が少ない現状があります。
 ちょうかくしょうがいしゃ きぼう ほうほうじょうほう みな しゅわ つた
 聴覚障害者が希望する方法で情報やコミュニケーションがとれるように、皆が手話や伝わりやす
 か
 く書けたらいいですが、まだそのような世の中にはなっていません。

しゅわ つた か つた ほうほう み かた まち しゅわ ようやく
 手話や伝わりやすく書いて伝える方法を身につけてみたいという方は、町には手話サークルや要約筆
 ひつき いちど けんがく
 記サークルがあるので、一度、見学してみてください。

おわりに

『ありがとう』^{ちいき} 地域の^{ことば}言葉では「おおきに」「だんだん」「きのどくな」といいます。
みなさんが^{はな}話す^{ことば}言葉は、^{ちいき}地域や^{ひと}人によって^{ちが}違います。^{しゅわ}手話も、^{ちいき}地域や^{ひと}人によって^{ひょ}表
^{うげん}現^{ちが}が違います。

^{せい}精華町^{こう}広報誌^し「^{はな}華^{そう}創」に^{けい}掲載^{さい}している^{しゅわ}手話は、^{いち}ほんの^{れい}一例です。
^{ひょう}標準^{じゆん}の手話を^{しゅわ}掲載^{けい}していますが、^{しゅわ}手話を^{つか}使う^{ばしょ}場所や^{ひと}人によっては、^{つた}伝わらない
ことがあります。

^{たい}大切な^{せつ}ことは、「^{つた}あなたの^{きもち}伝えたい^{つた}気持ち」です。「^{つた}伝えたい」「^{つた}わかりたい」とい
^{きもち}う気持ちを^{たい}大切に^{せつ}し、^{しゅわ}手話だけではなく^{いろ}色々な^{ほう}方法^{ほう}を使って^{つか}目の^め前の^{まへ}人と^{こう}交
^{りゆう}流してください。

^{つた}伝える^{しゅだん}手段^きがたくさんあることに^き気づいて^{ねが}もらえることを願っています。